

The relationship between hypertension and health-related quality of life: adjusted by chronic pain, chronic diseases, and life habits in the general middle-aged population in Japan

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/46438

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



論文内容の要旨及び審査結果の要旨

受付番号 医博甲第 2559 号 氏名 北岡 政美
論文審査担当者 主査 西條 清史
副査 尾崎 紀之
山岸 正和

学位請求論文 題 名

The relationship between hypertension and health-related quality of life: adjusted by chronic pain, chronic diseases, and life habits in the general middle-aged population in Japan

(日本の中高年一般住民における高血圧と健康関連 QoL との関連—慢性の痛み、慢性疾患、生活習慣による調整—)

掲載雑誌名 Environmental Health and Preventive Medicine
2016 年掲載予定

要旨

高血圧は有病率の高い慢性疾患であり、さまざまな合併症を引き起こす危険因子である。多くの研究で高血圧と健康関連 QoL (HRQoL) の関連を検討しているが、いまだ議論の余地があり、慢性の痛みで調整した研究はまだない。本研究は、石川県志賀町のモデル地区に在住する 40 歳から 65 歳の一般住民 1291 名を対象とし、慢性の痛み、慢性疾患、生活習慣で調整して高血圧と健康関連 QoL の関連を明らかにした横断研究である。

調査は自記式質問紙を用い、HRQoL の測定には SF-36v2 の日本語版を採用した。8 つの下位尺度 (身体機能、日常役割機能 (身体)、体の痛み、社会生活機能、全体的健康観、活力、日常役割機能 (精神)、心の健康) で評価した。対象者を性別で層別化し、従属変数を SF-36 の 8 つの下位尺度、独立変数を年齢、BMI、慢性の痛みの有無、慢性疾患の既往、睡眠状態、運動習慣、仕事の有無とした重回帰分析を行った。

調査対象者の 1117 名が調査への参加に同意し、調査票を提出した (86.5%)。質問紙に十分な回答をし、脳血管障害、心血管障害、慢性の痛みを伴う疾患 (胃十二指腸潰瘍、骨折、変形性関節症、骨粗しょう症、関節リウマチ、椎間板ヘルニア) の既往がない 686 名 (平均年齢: 54.2 歳、女性: 54.2%、高血圧: 男性; 25.2%、女性; 20.4%) で重回帰分析を行った。その結果、高血圧の男性の社会生活機能は、高血圧でない男性のそれより有意に高く ($\beta=0.149$, $p<0.05$)、一方で高血圧の女性の全体的健康観は、高血圧でない女性のそれより有意に低かった ($\beta=-0.200$, $p<0.001$)。

高血圧の女性で全体的健康観が低い理由として、高血圧は中年女性が経験する最初の生活習慣病であり、長期の罹患が予想されることとの関連を類推した。高血圧の男性で社会生活機能が高い理由を本研究の結果から示せないが、高血圧と積極的、攻撃的な性格との関連や、社交的で明るい性格の人は、家庭での収縮期血圧が高いと報告されており、性格と社会生活機能の高得点の関連が予想された。これらの結果は健康に関する認識の性差によるものかもしれない。

以上のように、本研究は高血圧と HRQoL の関連を疫学的に明らかにしたものであり、中高年者の予防医学に寄与する労作と評価され、医学博士に値するものと認められた。